



令和3年度全国社会就労センター総合研究大会（北海道大会）
分科会Ⅰ・事業種別部会等におけるテーマ、ポイント、実践報告者

分科会Ⅰ・事業種別部会等におけるテーマ、ポイント、実践報告者をご案内いたしますので、本大会への参加申込にあたり、分科会Ⅰの選択をいただく際にご参照ください。

なお、以下の内容については、一部変更となる可能性がございますので、あらかじめご了承ください。

① 生保・社会事業部会 ※全体討議を実施予定

| | |
|-------|--|
| テーマ | 生保・社会事業授産施設の意義・役割について |
| ポイント | <ul style="list-style-type: none">生活保護受給、基準該当就労継続支援B型利用、みなし保護、その他の利用（緊急一時避難的な受け入れ、雇用契約締結等）等、多種多様な生保・社会事業授産施設の利用者の現状について多種多様な利用者に対しての支援や、その支援を展開するうえでの運営上の工夫について利用者の受け入れにあたる行政等関係機関との連携について |
| 実践報告者 | 荒木 真由美 (熊本県／(福)熊本市社会福祉協会 熊本授産場 場長 全国社会就労センター協議会 生保・社会事業部会 幹事) |

② 雇用事業部会 ※パネルディスカッションを実施予定

| | |
|-------|---|
| テーマ | A型事業の可能性～雇用と福祉の融合がもたらす障害者雇用のあり方～ |
| ポイント | <ul style="list-style-type: none">令和3年6月8日に「障害者雇用・福祉施策の連携強化に関する検討会」の報告書が示された。報告書の中では、A型事業への厳しい指摘がなされると同時に、その役割やあり方の整理についての言及がなされ、A型事業の課題が浮き彫りになったと言える。本分科会は、“雇用側”と“福祉側”それぞれの視点から、A型事業の課題や期待を議論することで、A型事業が持つ可能性を探ることを目的に実施する。 |
| 実践報告者 | 【パネリスト】(現在調整中) 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 厚生労働省 職業安定局 雇用開発部 障害者雇用対策課 【コーディネーター】 松村 浩 (三重県／(福)維雅幸育会 常務理事 全国社会就労センター協議会 雇用事業部会 副部会長) 志賀 正幸 (長崎県／(福)つかさ会 理事長 全国社会就労センター協議会 雇用事業部会 幹事) |

③ 就労継続支援事業部会 ※グループ討議を実施予定

| | |
|-------|--|
| テーマ | ①コロナ禍を契機として見直す事業運営とこれからの方向性 ②“新たな類型”の選択とその可能性 |
| ポイント | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度はコロナ禍での社会経済活動の停滞により、B型事業の生産活動に深刻な影響が生じた。また、障害福祉サービス等報酬改定の議論が行われ、従来の平均工賃月額による報酬体系に加え、平均工賃月額によらない“新たな類型”が新設された。 本分科会は、「①コロナ禍を契機として見直す事業運営とこれからの方向性」と「②“新たな類型”の選択とその可能性」をテーマに据え、事業所の実践報告から、今後のB型事業の方向性や可能性を探り、今後の事業運営に生かす学びを得ることを目的に実施する。 |
| 実践報告者 | ①コロナ禍を契機として見直す事業運営とこれからの方向性 小島 滋之 (滋賀県/(福)八身福祉会 八身ワークショップ 施設長 全国社会就労センター協議会 就労継続支援事業部会 幹事) ②“新たな類型”の選択とその可能性 竹村 絵里 (埼玉県/(福)あげお福祉会 プラスハート 管理者 全国社会就労センター協議会 就労移行支援事業部会 幹事) |

④ 就労移行支援事業部会 ※グループ討議を実施予定

| | |
|-------|---|
| テーマ | コロナ禍・障害福祉サービス等報酬改定を踏まえた 就労移行・就労定着支援事業所の取り組み |
| ポイント | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度はコロナ禍での社会経済活動の停滞により、障害者雇用へのマイナスの影響があった。また、障害福祉サービス等報酬改定の議論が進められ、就労移行・就労定着支援事業の報酬の考え方に一部変更がなされた。 本分科会は、コロナ禍や報酬改定を前提に両事業を取り巻く現状を共有したうえで、ICT や在宅支援などの障害者就労支援の方法論などを幅広く学び、今後の事業運営に生かす学びを得ることを目的に実施する。 |
| 実践報告者 | 辻内 理章 氏 (千葉県/(福)ロザリオの聖母会 みんなの家 所長) |

⑤ 生産活動・生活介護事業部会 ※グループ討議を実施予定

| | |
|--------------|--|
| テーマ | コロナ禍における生活介護事業所の新たな取り組み |
| ポイント | <p>昨年より流行している新型コロナウイルスの感染拡大は、生活介護事業の運営に大きな影響を与えた。苦しい状況の中で、利用者の方々の生産活動や生活全般を守るため、新たな取り組みを始めた生活介護事業所がある。本分科会では、以下の3点を踏まえた実践報告により、今後の支援の在り方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産活動の縮小を乗り越える新たな取り組みについて ・ 新型コロナウイルス感染症により表面化した生活介護事業の課題について ・ 感染症予防に係る衛生指導について |
| 実践報告者 | <p>高橋 淳子 (宮城県/(福)共生福祉会 仙台ワークセンター 全国社会就労センター協議会 生産活動・生活介護事業部会 幹事)</p> <p>中尾 富嗣 (佐賀県/(福)佐賀西部コロニー 全国社会就労センター協議会 生産活動・生活介護事業部会 幹事)</p> |

⑥ くらす（グループホーム）検討会 ※グループ討議を実施予定

| | |
|--------------|--|
| テーマ | 働くを支える“くらす”の場における支援のあり方について考える |
| ポイント | <ul style="list-style-type: none"> ・ グループホーム利用者の約4割は“障害支援区分が4以上の重度者”となっている。障害の軽重を問わず、夜間を含む利用者への支援の質を担保するための人員配置について、人材確保の観点を踏まえ、検討する。 ・ 日中サービス支援型グループホーム（平成30年度創設）の定員は“20名”まで認められている。元々のグループホームのコンセプトである「朝晩は少人数で寝食を共にする家庭的な暮らし」を踏まえ、グループホームの適正な定員規模を検討する。 ・ 自然災害が頻回に発生する昨今、社会福祉施設も地域住民との関わりが重要となっている。自然災害発災時における、グループホームや施設入所支援と地域住民等との“支える”“支えられる”、より良い関係の構築について、検討する。 |
| 実践報告者 | <p>中川 博之 氏 (北海道/(福)雪の聖母園 ライフネットゆうぱり 管理者)</p> <p>松田 愁司 氏 (北海道/(福)空知の風 共同生活援助事業所 歩～夢 施設長)</p> <p>星 愛子 氏 (新潟県/(福)新潟市中央福祉会 地域サポートセンターミナと サポートセンター長)</p> |

